とちぎで暮らそ Vol.4

栃木市　移住・定住支援情報

住みたい田舎ベストランキング(宝島社)

子育て世代全国第１位

総合・若者世代2位　シニア世代3位

栃木市ってどんなとこ？

古くは飛鳥時代から平安時代にかけて下野国庁が置かれ、江戸時代には日光例幣使街道の宿場町として栄える一方、市内を流れる巴波川（うずまがわ）の舟運により北関東随一の商都と呼ばれ、明治初期には栃木県庁が置かれるほどの発展を遂げました。栃木県の最南端に位置しており、東武鉄道とＪＲが乗り入れる栃木駅を含む１２の駅に加え、東北自動車道と北関東自動車道の結節点として東西南北に交通網が広がることから、首都圏を含む多方面へのアクセスに優れています。東京駅へは最短55分、新宿駅までの直通電車もあり、都内への通勤・通学が可能です。東には豊かな田園、西には「太平山」、南には「渡良瀬遊水地」、北には昔懐かしい里山風景が広がるなど自然に恵まれ、また、地震や雪の影響も少なく、大変住みやすいまちです。

歴史ある街並み

例幣使街道の一部は、現在の中心街をなす大通りや、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された嘉右衛門町（かうえもんちょう）地区であり、黒塗りの重厚な見世蔵や白壁の土蔵群が今も残ります。また、栃木市最大の祭り「とちぎ秋まつり」では、絢爛豪華な江戸型人形山車が街中を練り歩き、江戸時代を彷彿とさせる「粋」と「雅」を今に伝えています。

栃木市データ

人口	159,211人
保育園・認定こども園	34園
小学校	30校
中学校	15校
高校	8校
病院	6か所
診療所	129か所
スーパーマーケット	33店
コンビニ	76店

出典：H27国勢調査、H31栃木県病院・診療所名簿

太平山

桜や紅葉の名所であり、山頂に近い謙信平からの眺めは、点在する丘陵を海の小島に見立て、陸の松島とも称されます。天気の良い時には、東京スカイツリーや富士山を見ることもできる絶好のビュースポットです。

渡良瀬遊水地

国際的に重要な湿地として「ラムサール条約」に登録された東京ドーム約700倍の面積を誇る日本最大の遊水地です。広大なヨシ原は貴重な動植物の宝庫である一方、スポーツやレクリエーションの場として市民に親しまれています。

移住者の声　File.1

青山直人さん・菜月さんご家族

【子育て世代】【埼玉県から移住】

【利用した移住支援制度】

IJU（移住）補助金

通勤者特急券購入費補助金

移住体験施設「IJUテラス蔵人館」

我が家がある街をイメージする。

私の生まれは栃木市の岩舟地域なのですが、就職を機に地元を離れ、しばらくは都内での生活を続けていました。妻は、地元が神奈川県で職場は都内、私と出会うまでは栃木市どころか栃木県に縁のない生活を送っていたそうです。それこそ、修学旅行で日光東照宮を訪れたことがあるくらい。

結婚を意識しはじめた頃、お互い都内での仕事もあるけれど、家賃を考えると職場近くに住むことは難しいよねということで、東京都を出て埼玉県草加市で暮らすことに。大型ショッピングモールも近くて、間違いなく便利ではあったのですが、いざ子育てが始まると、子どもを自由に遊ばせることができない賃貸の難しさに直面してしまいました。そこで、一軒家を考えることになるのですが、都内はもちろん、埼玉県内でも土地は非常に高額。こちらで見て回った土地と比べても5倍はしたはずです。栃木市なら、建物だけでなく家族にも十分なお金を掛けることができる、そう思ったことが、移住に対する視野を広げるきっかけになったと思います。

人を知る。街を知る。

移住は子どもの将来にも関わることなので、やはり不安はありました。そこで、まずはその地域に暮らす「人」を知ろうと思ったんです。それこそ、栃木市に限定せず、各地ではどんな人が、どんな取り組みをしているのかを知りたいと。移住先を決めるまでの1年間は、都内や各地で開催されている移住関連イベントにたくさん足を運びました。おかげさまで、たくさんの魅力的な人に出会い、栃木の魅力に改めて気付くことができましたし、栃木市の移住に対する柔軟な姿勢も知ることができて、当初抱いていた移住への不安は次第に消えていったことを覚えています。

栃木市で開催のイベントにも参加したのですが、このことがきっかけで、土地選びから仕事探しの手伝いまで、住宅に限らず様々なことでお世話になった地元の不動産業者の方とも知り合うことができました。今では、この方がスポンサーのラジオ番組にも出演したことがあるほど、親しくさせてもらっています。

家族と街と、一緒に暮らす。

以前暮らしていた街も、私達にとっては縁も所縁もない場所でしたので、そこで出会った方々と築いた繋がりを考えると、引越し前はやはり寂しかったのを覚えています。ただ、こちらでの引越し作業がちょうどひと段落した時、「今日引越して来られたんですね。」と近所のママさんや子ども達が、連れ立って10人くらいで会いに来てくれたんです。中には私達と同じく県外から移住してきた方もいて。知り合いが少ない中、これから頑張らないといけないなと思っていた矢先でしたので、これだけ歓迎してもらえるとは思いもよらず、とても安心できました。

児童館や支援センター等、遊ぶことができる場所も近くにあるので、息子もすっかり栃木市の生活に馴染んできたみたいです。私も息子と一緒に出掛けることで、街の全体を見つめる余裕が出てきましたし、これからもたくさんのママさん達と知り合えるだろうなという期待を持てるようになりました。

我が家も念願の一軒家。子どもが飛んだり跳ねたりしても気兼ねなく過ごせます。これからは、体をたくさん動かして大きくなっていって欲しいです。

これまでの生活と繋がるこれから。

移住を考えるなら、イベントの場でも相談窓口でも、どこでもいいので人を通してその地域を知ることが近道だと思います。こんな人がいるなら大丈夫! という気持ちを持つことがすごく大切です。

移住体験施設で実際に栃木市の暮らしを体験することもお勧めです。駅や市役所からも近くて気軽に使えますし、ちょっと行けば田舎だけど、手近なところには必要なものが揃っていて、まさに程よい田舎を実感できると思います。地産地消の野菜の安さは、地元ならではです。

実は今も、都内に電車通勤をしています。補助金（通勤者特急券購入費補助金）のおかげもあって、都内直通の特急通勤ができる分、通勤中の時間が無駄になることもありませんし、何より座って通勤できるので、以前よりも楽なくらいです。個人的には、前を向いて座ることができる点はポイントが高いですね。仕事の面だけを考えて、都内での生活を送っていた頃と比べて、将来的な楽しみや余裕を、たくさん手に入れることができたんじゃないかな。

Check! 東武鉄道沿線エリアの不動産

栃木市は東武鉄道とJRが乗り入れる栃木駅を含む12の駅を持ち、東武鉄道で首都圏に直結していることから、都内への通勤・通学が可能です。また、東武鉄道沿線の主要都市と比べ家賃相場に大きな違いはありませんが、土地の価格はとてもリーズナブル。一軒家を持つにはもってこいの街です。

※令和元年9月現在

エリア	家賃(2LDK)／月	土地価格／坪
栃木市	5.8万円	12.6万円
宇都宮市（栃木県）	6.0万円	35.3万円
春日部市（埼玉県）	6.0万円	47.5万円
足立区（東京都）	10.0万円	154.4万円

出典：（公社）全国宅地建物取引業協会連合会（不動産に関する全国統計データ）、国土交通省地価公示

移住者の声　File.2

工藤 裕さん・知美さんご家族

【子育て世代】【東京都から移住】
【利用した移住支援制度】
IJU（移住）補助金

都内で暮らすこと。地元で暮らすこと。

妻も私も東京での暮らしは大学生時代からです。もともと中学校の同級生同士だったことや、大学生当時、お互いが偶然近くに住んでいたこともあって、出会ってからは随分と長い付き合いになります。就職によりお互い東京を離れることになりましたが、転勤・転職により再びお互い東京へ戻り、結婚後は子どもの学区の範囲内で引越しを繰り返しながら、最終的に都内の調布市での暮らしに落ち着きました。

日常の買い物等で苦労することはもちろんありませんでしたが、当時の住まいは駅まで自転車で15分。車の駐車場代も月額1万円を超えていて、無料の場合もある栃木市と比べると、けっこうな負担だったと思います。子ども達にとってもアパートの部屋はそれほど広いわけではありませんし、外で遊ぶにしても、ボール遊びが禁止など制約の多い公園が多く、生活する上で次第に手狭な環境になってきていたと思います。今後ますます活発になっていく子ども達のことを考えると、Uターン移住も選択肢の一つかなと考えるようになったのです。

子育てすること。働くこと。

移住後も転職せず、都内の同じ職場で働くことができると思えたことも、Uターン移住を決めた理由の一つです。住まいが都内とはいえ、以前の通勤には電車や自転車で合計1時間以上の時間が必要でした。今は自宅が駅近くなのもあって、通勤時間は1時間30分程度。プラス30分なら、特にこれまでと変わらず十分通勤できると思えたのです。それ以上の時間を掛けて通勤している同僚もいますしね。

加えて、お互いの実家近くという安心感が、通勤の問題と比べても大きかったと思います。子どもが体調を崩した時に実家を頼れることは、共働きの私達にとって何よりも心強い。地元には戻らず都内で暮らすことを選ぶ方も多いと思いますが、求めるもの次第で様々なスタイルの生活にたどり着くことになるのだろうと思います。私達にとっては、それが子育てだったということなのかな。

それに、栃木市の子育て支援体制も充実していて、たいへん助けられています。以前は子ども達の医療費が少額ながらもかかっていたのですが、こちらでは中学生まで無料なんです。通院回数が多くなりがちな子どもにとって、この差はとても大きいと思います。発音が苦手な子どものための「ことばの教室」にもお世話になりました。親としても、自分の子ども達の話し方について正しく知ることができたし、小さなうちにきちんと練習させることができてすごく良かったなと思います。

子どもが育つ場所。

小学校の転校等、子ども達にとっての環境の変化はやはり心配でした。ただ、子ども達に聞いてみると意外にも、以前と今の暮らしで変わった点は何もないとのこと。小さい頃から続けてきたサッカーのおかげもあるみたいです。実は栃木市にもプロのサッカークラブがあって、子ども向けのサッカークラブも多いので、サッカーをやる子ども達にとっては恵まれた環境だと思います。親の私から見ても、栃木の子ども達のレベルは東京と比べて遜色がなくて、息子達は周りの刺激を受けてどんどん上達しています。東京の友達との交流も続いていて、この前も家族で会いに行きました。移住したからといって都内との関係性が完全になくなるわけではなく、会いたい時には会えるこの距離感がとても良いですね。

街とかかわる豊かさ。

以前は挨拶をする程度のご近所付き合いが基本で、気付いたら違う人がお隣に住んでいたなんてこともありました。人が多いからこそ、都内では人の繋がりが希薄なのかもしれません。実は今、自治会の副会長を任されているのですが、おかげさまで顔見知りも増えましたし、地域のお祭りに参加して山車を引いたり、子ども達はお神輿を担いだりと楽しませてもらっています。東京ではイベントの規模が大きくて見る側にまわることが多いので、自分達も参加していると感じるのはこちらならではです。お祭りの感じ方、かかわり方がとても豊かになりました。以前は街の運動会に大人になっても参加するなんて、思いもよらなかったですよ。

Check! 栃木市の子育て支援制度

中学生までの医療費(保険適用分)が無料となる「こども医療費助成制度」や「ことばの教室」以外にも、栃木市では様々な内容で市民の子育てをサポートしています。そのうちのいくつかを、こちらでご紹介します。

両親（母親）教室	安心して出産を迎えられるように、保健師、助産師、管理栄養士が、妊娠・出産・育児の正しい知識を3種類の内容でお伝えします。
生後2週間目全戸電話相談 ・こんにちは赤ちゃん訪問	人口比の保健師数が県内第1位の栃木市では、赤ちゃんがいる全てのご家庭に対して電話相談・個別訪問による育児についてのご相談をお受けしています。
産後ケア事業（宿泊・通所型）	出産後の育児や家事の疲れから体調がよくない、不安を感じているお母さんと赤ちゃんを対象に、病院等で「宿泊」「日帰り」の授乳・育児指導を行っています。
ファミリー・サポート・センター	子育ての手助けをしてほしい人とお手伝いをできる人が、育児の相互援助を行う事業です。小学校までのお子さんを対象に、預かりや送迎等の援助を行います。
地域子育て支援センター	地域の子育て拠点として、0歳から就学前の親子の交流の場の提供、子育てに関する相談・援助や子育て関連情報の提供を行います。

移住者の声　File.3

大平 健さん・京子さんご家族

【シニア世代】【福島県から移住】

【利用した移住支援制度】

IJU（移住）補助金
空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」
移住体験施設「IJUテラス蔵人館」

自然に囲まれた生活に憧れて。

学生、社会人と、東京の新宿生活が長かった私ですが、若い頃から都会の窮屈な感じがとても苦手でした。山や川が大好きだったこともあり、自然の豊かな街で、アウトドアを満喫しながら暮らすことにずっと憧れを持っていたんです。

私も妻も、元をたどれば東京の出身なのですが、出会ったのはお互いが仕事の都合で移り住んでいた埼玉県。東京からは離れましたが、それでも私が思い描くような自然に囲まれた生活とは程遠い生活でしたので、豊かな自然の中で暮らしたいという思いは日に日に募っていきました。そんなある日、福島県でトマト作りの新規参入者を募集しているとの話を知人から聞きつけます。長年の夢を叶えるべく福島県への移住を決めたのが２５年前。以来、夫婦二人三脚でのトマト作りと、憧れだったアウトドア満喫の日々を過ごしてきました。

さらなるライフステージ。

自然に囲まれた福島県での暮らしはとても豊かでしたが、周囲は本当に何もない、山の中の一軒家という感じだったので、それまでとは１８０度暮らしぶりが変わることになりました。小さなスーパー等は近場にもありましたが、駅や大型店舗、病院までは車で1～2時間かかります。とはいえ、当時は不便さよりも憧れていた生活に夢中で、不満も心配もありませんでした。でもやっぱり、年齢とともに遠方の大きな病院にお世話になることが増えてきましたし、その一方で車の運転は難しくなっていきます。以前は難なくできていた冬の雪かきにも苦労するようになりました。長年暮らしてきて名残惜しい気持ちはありましたが、今の私達にとって、もう一度だけ、移住をすることが必要になったのです。

たまたま出会ったこの街。

当初は、子ども達のいる埼玉県に戻ろうかとも考えていました。ただ、自然に恵まれた生活をすっかり手放してしまうのは避けたくて、子ども達との距離が離れておらず、落ち着いた自然環境の移住先をひとまず探してみることにしました。埼玉、群馬、栃木といろいろな街を巡りましたが、栃木市に立ち寄ったのは本当にたまたまです。市役所の1階が百貨店になっているなんて珍しいね、近くを通るし寄ってみようか、といった何気ない会話をしたことを覚えています。あの時、突然訪問した私達の相談にも熱心に応えてくれて、栃木市の移住に対する姿勢を信頼することができたから、私達は今この街にいるのだと思います。縁も所縁もない土地だからこそ、気持ちの通じる出会いが大切なのでしょうね。

新しい我が家と私たちの街。

栃木市は太平山のような山もあるし、足を延ばせば鮎釣りができる川があるなど、これまで暮らしてきた地域と比べても満足のいく自然であふれています。街中もすっきりしていて都会のような窮屈感がありませんし、知れば知るほど私達の求めるものがある街だと感じるようになっていきました。

空き家バンク制度で気に入った物件が見つかったことも、移住した理由の一つです。他の自治体にはここまで使い勝手の良いものはないかもしれません。物件購入後、移住に向けてさっそく新たな我が家をＤＩＹしたのですが、作業中はそこで寝泊りするわけにもいきませんから、移住体験施設を利用させてもらいました。当初は、物件探しのための滞在用として、移住体験施設を申し込んだんですよ。そうしたら、利用期間が始まる前に気に入った物件が見つかってしまって、まさにとんとん拍子といった感じでした。

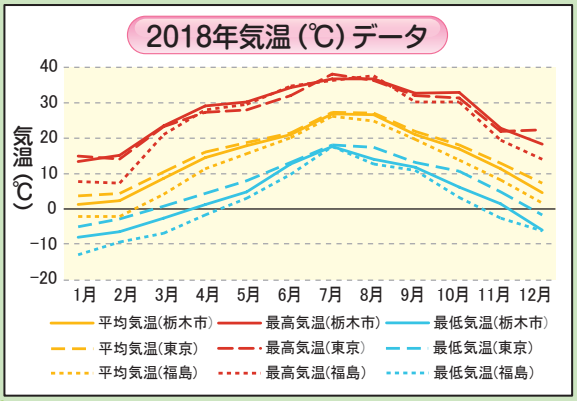
家族とこの街の人たちと。

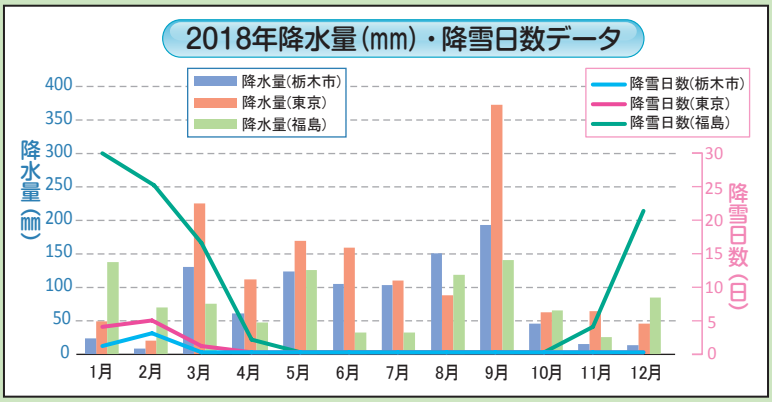
体調を崩したときの診療所に困ることもなくて、大きな病院（とちぎメディカルセンターしもつが）も車で１０分程度。今は安心して生活することができています。これまでは買い溜めが基本だった買い物も、その時必要な分だけを買いにいけばすむようになりました。ちょっとした買い物でも気軽に出掛けられることは、日常のささやかな楽しみです。

スーパーの店員さんも街の電気屋さんも、会話する人みんなが温かいなと感じています。いまだに忘れられないのは、空き家バンクでお世話になった不動産業者の方。家の鍵を受け取って、玄関先での別れ際、「近所にまだ知り合いもいないだろうから、何かあったら電話していいからね。相談に乗るよ。」と言ってくれたのが本当に嬉しかった。移住者を安心させてくれる温かさが、この街のそこかしこにあふれている。そんな気がしています。

Check! 栃木市の気候

栃木市の平均気温は東京とほとんど差がありません。雪がほぼ降らないことから、冬の暮らしに負担が少ない点も、栃木市の特徴の一つといえます。





出典：栃木市消防年報令和元年版、気象庁ホームページ（http://www.jma.go.jp/）※過去の気象データ（2018年東京都東京・福島県若松）を編集して作成

おすすめ移住支援補助制度

Check 1 「IJU（移住）補助金」

【対　象　者】 市街化区域に家を新築・購入（H28年4月～R2年3月の契約）した転入者
【補助金額】 新築住宅：30万円　中古住宅：20万円
【若年世帯加算】 所有者・配偶者どちらかが40歳未満：10万円（50歳未満：5万円）
【子ども加算】 18歳未満の子ども1人につき10万円
【勤労者加算】 市内勤務：10万円　市外勤務：5万円

≪モデルケース：新築住宅、35歳、子ども2人、市内勤務の場合≫

補助金合計 70万円（30万円+10万円+10万円×2+10万円）

「多世代家族住宅新築等補助金」

【対　象　者】 市街化調整区域に3世代以上が同居または近居するための家を新築・購入・増改築（H28年4月～R2年3月の契約）した方

【補助金額】 **20万円**

Check 2 「【フラット35】子育て支援型・地域活性化型」

【対　象　者】 Check1の「IJU（移住）補助金」に該当する方
【内　　容】 長期固定金利住宅ローン【フラット35】を利用して住居を取得すると、当初5年間、借入金利が0.25%引下げ！
さらに【フラット35】Sとの併用で、当初5年間、0.50%も引下げとなります！

借入額が3,000万円の場合、約110万円もお得に！

※ 借入金利年1.17%、借入期間35年、元利均等返済、ボーナス返済なし、【フラット35】S（金利Aプラン）と【フラット35】子育て支援型・地域活性化型を併用（当初5年間、年0.50%引下げ）した場合の試算

Check 3 「移住支援補助金（とちぎWORKWORK（わくわく）就職促進プロジェクト）」

移住のハードルの一つは仕事選び。栃木市は、移住者の受入れに積極的な企業のご案内や起業したい方をサポートするための補助金をご用意しています！

【対　象　者】 次の各要件を満たす方
・東京23区に直近5年以上在住
または、東京圏に直近5年以上在住し東京23区に通勤していた方
・栃木県が運営する「企業情報掲載サイト」の企業に就業した方、市内で起業した方

【補助金額】 **世帯で移住の場合100万円 単身で移住の場合60万円**

※その他一定の要件を満たす必要があります。詳細は市ホームページまたは問合せ先へ。

Check 4 「通勤者特急券購入費補助金『楽賃（らくちん）』」

都内まで電車でおよそ1時間の栃木市なら、都内通勤が十分可能！
『楽賃』を使えば特急列車でらくらく都内通勤も可能です！

【対　象　者】東武鉄道を利用して都内へ通勤する方

【補 助 金 額】**特急券購入費用に対し、1月最大1万円**

（特急利用に対する手当が支給されている場合、その額を除きます。）

「通学者定期券等購入費補助金『通学版楽賃（らくちん）』」

市内から通学している若者世代を強力バックアップ！

【対　象　者】東武鉄道を利用し東京圏に通学する大学生・短大生・専修学校生

【補 助 金 額】**1年度につき最大2万円**

Check 5 「結婚新生活支援補助金」

新たな生活の始まりには何かとお金がかかるもの。栃木市は、幸せいっぱいな二人の新生活のスタートをお手伝いします！

【対　象　者】次の3つの要件を満たす夫婦

- 平成31年1月1日～令和2年3月31日に婚姻したこと
- 平成30年の2人の合計所得が340万円未満であること
- 婚姻時の年齢が夫婦合わせて70歳未満であること

【補 助 金 額】

住宅の購入・賃借費用及び引越費用の合計額に対し、最大30万円

Check 6 「空き家バンクリフォーム補助金」

空き家バンク制度を利用して、おトクな古民家を理想の住まいに復活させてみてはいかがですか？ 栃木市では、空き家を有効活用してくださる方をお待ちしています！

【対　象　者】空き家バンク制度登録物件を購入・賃借し、リフォーム工事や家財処分を行う方

【補 助 金 額】

リフォーム工事費用の2分の1について最大50万円

家財処分費用について最大10万円

（リフォーム工事費用が20万円未満、家財処分費用が5万円未満は対象外）

《栃木市の空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」は成約数全国No.1!
まだまだ使える市内のおトクな空き家情報を、専用HPにて毎日発信中です!》

専用HPはこちら!

問合せ先 **栃木市住宅課定住促進係**

☎ 0282-21-2451　✉ jyutaku@city.tochigi.lg.jp

試してみませんか？ 栃木市の移住体験施設

栃木市では、移住後の具体的な生活がイメージできるように、最長で1か月間、実際に暮らすことができる宿泊施設を2棟ご用意しています。タイプの異なる両施設では、いずれも栃木市の魅力や歴史・文化を肌で感じることができます。

「蔵の街やどかりの家」

市内中心部の水辺に佇む「蔵の街やどかりの家」は、昭和25年に建てられた、随所にこだわりの意匠を持つ趣ある古民家です。畳と浴室をリフォーム済みですので、古民家の魅力そのままに、快適にお過ごしいただけます。街中にあることから、気軽な蔵の街散策もお楽しみください。

「蔵の街やどかりの家」

場　所　栃木県栃木市入舟町14-17

間取り　3LDK　※敷地内に駐車スペースあり（1台）

＊移住体験施設ご利用案内＊

専用HPはこちら!

栃木市　移住体験

期　　間	1泊～1か月まで
利 用 料	1泊2千円～1か月3万円（光熱水費込）
申込方法	専用HPメールフォームまたは電話から申込み
設備・備品	バス、トイレ、キッチン、ＴＶ、エアコン、冷蔵庫、炊飯器、食器、オーブンレンジ、調理器具、掃除機、洗濯機、ドライヤー、Wi-Fi、自転車
周辺情報	市役所、スーパー、百貨店、金融機関から徒歩5分。栃木駅から徒歩15分。

「ＩＪＵテラス 蔵人館」

江戸時代後期の見世蔵と土蔵をフルリフォームした、蔵の外観と現代的な居住空間を兼ね備えるカフェ併設型の移住体験施設です。市内中心部の大通りに面していることから、蔵の街の今を余すことなく体験できます。カフェ「日光珈琲 蔵ノ街」では、市内外から訪れるたくさんの方々との交流もお楽しみください。

「ＩＪＵテラス蔵人館」

場　所　栃木県栃木市万町4-1

間取り　１ＬＤＫ　※駐車場は市役所駐車場を使用（徒歩５分）

移住体験施設利用者の皆様

個性的な個人商店がたくさんあって、これまで全国の街をみてきた中で初めての経験。大変感銘を受けました。

道にゴミ１つ落ちていない街並みはとても好印象でした。

挨拶をしてくれるご近所の方々。それだけでも優しくあたたかい人柄を感じ、街にも親しみを感じました。

一通りの家具家電が揃っているだけでなく、お風呂等の水回りも清潔で、とても気持ちよく利用できました。

蔵の街並みがとてもきれいで、街を散策するとおしゃれなコーヒーショップをたくさん発見！街歩きが楽しみな毎日でした。

暮らしてみてわかったことは、栃木市が蔵と水の街だということ。これだけ水が美しいところはめったにないと思います。

やどかりの家は「まるでアニメの世界みたい！」と子ども達がはしゃぎっぱなしでした。

広くてきれいな園庭の保育園が多いので子育てしやすそうです。

とても快適で静か。居心地がよくて日頃の疲れも癒されました。

落ち着いていて温もりを感じさせる素敵な街でした。

スーパーや商店も近く、何不自由なく過ごせました。

広くて坂のない道が続いていて、自転車での移動も楽々でした。

栃木市の暮らしに興味をお持ちいただけましたか？

～移住までの流れを簡単にご案内～

STEP 1

まず家族と相談しましょう

●どんな目的で、どんな生活をしたいのか、家族でじっくり考えましょう。

先輩移住者の体験談も参考にしてみてください。
『移住者の声 File.1 ～ File.3　3P ～ 8P』

STEP 2

地域の情報を集めましょう

●仕事や住まい、医療機関、教育環境など、暮らしに必要な情報を集めましょう。

移住に関する相談は住宅課定住促進係窓口へ！
また、お得な値段で参加できる移住体験日帰りツアーも毎年開催していますので、まずは観光気分で栃木市を体験してみるのはいかがでしょう？

STEP 3

移住体験をしてみましょう

●栃木市の暮らしを体験してもらうため、2つの移住体験施設を用意しました。

いつでも何度でもご利用可能です。
『蔵の街やどかりの家 11P』
『IJU テラス蔵人館 12P』
『移住体験施設利用者の皆様 13P』

STEP 4

仕事・住まいを探しましょう

●栃木市では、仕事や住まい探しに役立つ支援制度のご案内が可能です。

栃木市空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」は
物件成約件数の実績が2年連続全国No.1！
専用HPでお得な空き家情報を毎日発信中です！

STEP 5

いざ移住！新生活を楽しもう！

●新たな発見を重ねながら、「住んでよかった!」と言える生活を送りましょう。

移住後の悩みや疑問について、先輩移住者に相談できる移住相談交流会を毎年開催しています。せっかくの新生活、この機会に新しい友人との出会いを楽しんでみては？

交通のご案内

アクセス

栃木市

車をご利用の方

●東北自動車道（川口JCTから栃木I.Cまで約45分）

- 川口JCT → 東北道 約35分 → 佐野藤岡I.C → 東北道 約10分 → 栃木I.C
- 郡山I.C → 東北道 約90分 → 栃木I.C

●北関東自動車道（友部JCTから栃木I.Cまで約40分）

- 高崎JCT → 北関東道 約50分 → 栃木I.C
- 友部JCT → 北関東道 約35分 → 都賀I.C → 北関東道 約5分 → 栃木I.C

電車をご利用の方

●東武鉄道（特急スペーシア/きぬ・けごん）（浅草駅から約65分）

- 浅草 → 日光線 特急 約10分 → 北千住 → 日光線 特急 約20分 → 春日部 → 日光線 特急 約35分 → 栃木
- 東武日光 → 区間 約60分 → 栃木
- 鬼怒川温泉 → 区間 約70分 → 栃木
- 会津高原尾瀬口 → 特・区急 約115分 → 栃木
- 東武宇都宮 → 区間 約30分 → 栃木

●JR東日本（東京駅から約55分）

- 郡山 → 東北新幹線 約30分 → 宇都宮 → 東北新幹線 約10分 → 小山 → 両毛線 約10分 → 栃木
- 東京 → 東北新幹線 約45分 → 小山 → 両毛線 約10分 → 栃木
- 上野 → 宇都宮線・快速 約65分 → 小山 → 両毛線 約10分 → 栃木
- 高崎 → 両毛線・普通 約90分 → 栃木

●JR・東武直通（JR特急きぬがわ・日光・スペーシア）（新宿駅から約70分）

- 新宿 → 約10分 → 池袋 → 約20分 → 大宮 → 約40分 → 栃木 ← 東武日光線 約60分 ← 東武日光 鬼怒川温泉

お問い合せ 栃木市 住宅課 定住促進係
〒328-8686 栃木市万町9-25
☎ 0282-21-2451
FAX:0282-21-2676
メールアドレス:jyutaku@city.tochigi.lg.jp
ホームページ:www.city.tochigi.lg.jp

栃木市章

ーデザインコンセプトー

緑色の4本のラインは「自然」、「歴史」、「地域」、「人」を表し、青色はこれらがひとつとなった大河の流れを、その先にあるオレンジ色の円は輝かしい未来と人々の情熱を表しています。いままでの歴史を受け継ぎ、明るい未来へと続くイメージを栃木市の「と」の文字をモチーフに表現しました。

栃木市マスコットキャラクター
とち介